



『今からでも』

通年コース第六・七回開催報告「間伐、集材」

夏の終わりを感じさせるような八月下旬の二日間、鳥崎先生の保残木マーク法から始まりました。森林調査の林齢と上層樹高から地位指数を求めると、将来の樹高成長は

ほぼその線に沿っていくので、最終的な伐期齢(主伐時の林齢)の時にはどのくらいの高くなるかという予想ができます。その時の相対幹距比を決めると保残木数がわか

ります。本数分だけ形質がよく樹高の高い木を選び、選抜した木の生長を阻害している木を伐ることが、この方法の最大の要点で、選抜木でもなく、伐る木でもない木がでてくるのも、この方法の特徴の一つです。そんな木は、次回の間伐で、将来へ残す木、今伐る木、また次回伐る木：

継続して手入れを行っていくことができれば、と感じる方法だと思います。今回の講座は、前回の測量・測樹と同じ西春近のヒノキ林で、保残木マーク法は使わずに、あらかじめ山主さんが選んでくれた伐倒木を伐る間伐と、ひっぱりだこという携帯可能な簡易ウィンチを使った集材となりました。

間伐では、六月の伐木造材以来の久しぶりのチェーンソー。しかも混みあったヒノキ林は、隣接木と枝が絡み合うような状態で、ロープやチルホールを設置しての牽引が

必要なが多く、伐倒方向を選定して退避路を確保したら、受け口・つる・追い口を思い出しながら、エンジンを開始し、立ち位置を決め、伐倒に移る。受け口の水平と斜めを一気に伐り開けたら、方向を確認して、追い口伐り。つるを厚めに

残して牽引してもらい、幹がある程度傾いたら追い口を伐り進む。最後は牽引で引き倒して完了という伐倒が続きました。枝払いでは、できるだけ梢に向かって幹の左側を進み、一本一本の枝にあわせてチェーンソーの向きを変えながらフルスロットルで、幹が滑らかになるように切り落とすように切りました。造材は軽トラで運搬可能な長さに。幹の動きを予測・観察しながら、地面に刃を当てず、切り口が幹と垂直になるように回し伐り。



姿勢を決めて



幹に預けて

間伐がすすみ、木漏れ日が差し込む林内に散らばった丸太は、ひっぱりだこで集めてみました。どの地点にどこを通って集めるか。その地点に

近い木に滑車を付け、折り返した安全なところの木に本体を設置。ワイヤーは滑車を通して丸太のある場所へ。赤いキャップに丸太を載せたら集材です。切り株を避け、生立している木々の間を抜けて引き寄せられた丸太は、林道脇のわずかなスペースのそこかしこに、綺麗に極積みされていきました。二日間の作業お疲れ様でした。



保残木マーク法とは



今回の内容
通年コース 第六・七回

8月21日(金)
間伐

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。日程説明・早川講師の挨拶の後、島崎先生から林業の現状や針葉樹の成長の特徴のお話を聞き、保残木マーク法と列状間伐の講義を受ける。

9時20分

班分け、身支度をして、分



全幹集材に挑戦

10時

乗で前回の測量・測樹と同じ西春近の現場へ向かう。現地着。前回の川島さん班の林分で、島崎先生による円形プロット調査法や保残木マーク法に関する講義。林齢と上層樹高から地位指数を判定すると、将来の樹高が予想できる。主伐のときの樹高と相対幹距の比から保残木本数を。形質の良い木を中心に選木すると、その成長を阻害する木を伐ることに。将来へ残す木・今伐る木と、どちらでもない木。今の手入れ、

11時

次回の間伐、そして残った木の成長が楽しみな間伐法。林分材積の簡易判定をするピットリッヒの話も。

12時

現場で各班毎に昼食。

12時45分

雨がパラバラ。少し早いが間伐を再開。込み合って、隣接木と枝が絡み合うような状態のヒノキ林なので、あらかじめロープを



枝払いのときのチェーンソー

11時 作業を交代。今度は平林さんの班がひっぱりだこ。川島さん・大野さんの班は間

16時

16時15分

各機材を準備して、間伐開始。テープの巻いてある木が伐る木。枝張りや幹の傾きなどから伐倒方向を決めたら、久しぶりのチェーンソー。エンジンの始動・受け口・追い口・つるを思い出し、退避路を確保して。

16時55分

一応、解散。暑気払いまでにお風呂でも。

18時30分

ビールとバーベキューで暑気払い。

8月22日(土)
集材

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。

8時50分

8時50分

後身支度をして、分乗で昨日と同じ現場へ向かう。

9時30分

大野さんの班

は、ひっぱりだこ集材。川島さんと平林さんの班は間伐。各班毎に機材を準備して作業開始。間伐では、中には太い伐倒木や傾きと異なる方向へ倒したい木があり、チルホールを使った牽引伐倒をすること。集材では、どの地点に何処を通って集めるか

12時30分

12時30分

13時30分

現場で各班毎に昼食。

12時30分

12時30分

13時30分

川島さんの班はひっぱりだこ集材。大野さん・平林さんの班は間伐で午後の作業を開始。集材では、枝払いは終了して仕るが造材をしない全幹の状態での集材や、山側への引き上げ集材に挑戦。間伐では、等高線方向への伐倒や牽引伐倒を継続。

15時15分

15時15分

16時

作業を終了。機材を片付けて小屋へ。チェーンソーメンテナンス。チェーンソーでエアクリナーを掃除。本体カバーを外して、ソーチェーンとバーを分離したら、オ



ガンバレ！チルホールマン

イルの通り道を入念に掃除。組み立てたらソーチエーンの目立て。スチールMS200は、4ミリの丸ヤスリで30度・水平に同じ回数ずつ。ハスクバーナの目立てを行う班も。

17時10分

講師総括。諸連絡をして終了、解散。お疲れ様でした。

参加者/安部(貴)さん、安部(英)さん、池中さん、大槻さん、荻上さん、沖永さん、加藤さん、熊沢さん、栗本さん、島谷さん、武田さん、増田さん、村田さん、鷹野さん、水野さん、熊木さん、園田さん

講師/島崎先生、早川講師
スタッフ/大野、川島、平林、坂野

次回以降の予定

第八・九回

9月11・12日(金・土)

間伐・集材

間伐・集材の第二回目。現場は、野底という地籍のヒノキ林で、一日目は、間伐をじっくりと。やはりロープやチルホールを使った牽引伐倒が多くなりそうです。

一日目は、「キャタトラ」という林内作業車を使った集材を二班一組で行う予定です。



両日ともに集合は、8時30分、島崎先生の山小屋です。マイ装備・マイ道具、ご持参下さい。

専門コース 第二回開催 10月1〜3日(木〜土)

早いもので今年度の最終回となります。今回は、富県というところのヒノキ・アカマツを主体とした傾斜林分での伐木造材となります。

基本の復習はもちろんです。引伐倒や矢を使った伐倒を行います。また、傾斜地での安全な造材や枝払いの習熟も平行して集大成としましょう。ご希望があれば集材なども可能です。

三日間ともに、

8時30分、島

崎先生の山小屋集合です。



リレー通信

「気になる木」

加藤 周児



集中講座を二度体験し、今年度は通年コースで基礎から学んでいます。基礎からと言ってもその内容は十分に高度であり、「守・破・離」の「守」をきちんと学び、型も習得したいと欲張っています。体で覚えて実践しないと直ぐ忘れてしまうタイプであり、まだ体力があるうちにと思っていました。が、定年退職の年まで通年コースを持ち越してしまいました。K O A森林塾で学びながら、「森づくり」で自分が、出来る事を決めたら、気負い無く、淡々と続けていきたいと思っています。

「なぜか木・森・山が好き」

お隣の岐阜県出身で、山が好きで信州にきて、三十六年になりました。今では山へはネイチャースキーに行くぐらいで、木が気になってしょう

がなくなっています。不思議です。森林塾の通年コースに参加し始めて、改めてこれまでの「山、森、木」との縁を振り返り、何故、木が身近になり、森に入ると気持ちよくなって、いきいきとした感情になれるのか?そんな、木を育て森をつくることに、自分が何か具体的に出来ることを考え始めたところです。遅きに失した(カミサン談)。それに、趣味が木工なので、木に触れているだけで豊かで幸せになれます。

「裏山の遊び」

美濃の山奥で育ったため、裏山(里山?)は、焚き付けを取りに入ったり、トリモチ・網で鳥を採ったり、兔を追ったり、猪に追われたり、栗・木の実採取、松茸採りと、遊び場でした。もちろん水遊び、魚採りも。また、和紙材料のガンピの皮で、お小遣いを稼ぐことが出来ました。県歌に、「緑を染めて朝の日

が・・・岐阜は木の国、山の国・・・という一節もあり、木と山は身近にあって、檜の森林もあり、枝打ち名人の技も見る事ができた時代でした。

「庭が雑木林に」

地目は山林で、全て斜面の狭い土地に家を建て、四半世紀が過ぎ、今は鬱蒼とした雑木林になってしまいました。自分で植えた木が育ったことなのに、眺めてため息をついています。もっと早くに森林塾で枝打ち、間伐を学んでおけばよかったのに・・・この土地は、唐松林で造成後も我が家側の樹齢四十年くらいの唐松を十本残しました。樹間と家の周りに、色々な広葉樹、百本以上を家族で植えました。それらの木が細いまま高く成長したところで、唐松を伐採すると、広葉樹(ブナ・カツラ・トチ・モミジ・夏ツバキ・ハクウンボク)がすくすくと成長しました。さらに旅行で行った場所で拾った種、知人がくれた種をその木々の間に埋めておいたら、実生で、カリフォルニアオーク、ユリノキからミ

「緑の防人」ハケ岳森林文化の会」

ハケ岳森林文化の会の森づくり部会に入り、市民の森(その当時は予定地)づくりの、間伐の作業で、全くの素人の私が、山林作業を覚えてもらったのが、森林塾OBのFさんでした。初心者なのにFさんは、間伐・枝払い・玉切り・集材の作業すべてにおいて森づくりのプロに見えました。そのFさんが学んだのがこの森林塾と知り、集中コースに申し込んだのが森林塾との縁です。その後泥縄で、山づくり・森づくりの本を読みました。ここ二年ほどは、仕事の関係もあり、森づくり部会の作業班のメンバーとしてはお役に立てず、集中コースでの成果が発揮できず、心苦しい状況です。

「まっすぐ行動を」

樹木の本、森づくりの本に囲まれ、木々を身近に感じ



リレー通信

森の奥深さを 愉しみたい

熊沢 清次



私は名古屋の出身で当年六十歳です。ずっと名古屋で育ち生計を建ててきたので、街のにぎわい、ネオンの輝きが私にとっては当たり前の自然な環境といってもいいくらい身体に染み付いています。しかし、九十年代に始まった住宅バブル期には、私の住んでいた緑区(名ばかりでした)が、元々少なかつた緑という緑が駆逐され、将来の幹線道路のために用地が赤土の瓦礫の広場へと変わり、その

て、森林再生のために何かしているつもりになっていく趣味的な生活から、森林塾で学んだことを楽しみながら実践している生活へと、変えていこうと思っております。「好きな事が好きなだけやれる」(定年退職)状態が目前で、わくわくしている一方で、「現実的に、具体的に何をやるの?」ということとを、敬愛する山の神からもきつく問われているのでもあります。ま



後、大型スーパーやホームセンターなどが続々と開店し始め、高層のマンションや一般住宅がひしめくように建っていききました。

このように短い期間にどんどん変貌していく街の姿を見ていると、四十歳を過ぎて、ノスタルジックに幼少の頃の風景と対比して、まだ残されていた自然との関係を懐かしんでいる自分に気付きました。その昔は、名古屋はまだ「大いなる田舎」と揶揄されていた程で、大小の工場と工

た、趣味の木工は、グリーンウッドワーク(生木で木工)です。小枝・ひこばえの大きな丸太を割る、削る。道具は手道具主体。エコ木工です。物覚えは悪いは、そそっかしいは、体力は無いはですが、物事は楽観的に考え、まず行動するという気持ちです。で、これからもよろしくお願ひいたします。

場の間には田んぼや畑が多くありました。水がきれいで水にはホタルが舞い、ザリガニ・カエル・小魚・チョウにトンボ・バッタなど季節を感じながら遊べる自然が身近にあったのです。そういう我が家のエネルギー源として、風呂とご飯は昔ながらの釜炊きと廃材を薪のように束ねたものを業者から買っていたことなど記憶が甦ります。

「田舎暮らし」の宣伝文句に惹かれるようになったのはその頃からでした。しかし、仕事(公衆衛生)はやりがいがあり、仕事と職場に関わる活動にも忙しくしていたので、一切の願望は退職後に追いやって、炭焼きや里山づくりの講習会への参加やチェーンソー技術講習など細々と関わってきました。

その後、定年までのカウンタウンが始まった時期に、中津川のNPO「恵那山みどりの会」にめぐり合い、炭焼きや竹林整備、国有林のふれあい事業などの取り組みを通して徐々に日本の山林の現状に関心を深め、その方面の書物も幾つか読むようになりまして。先輩の方から島崎先生の方から「山造り承ります」を薦

められ、森林塾もそれを知ることとなります。

日本で唯一再生可能で自給可能な資源である森林を有効に活用することが、温暖化防止に大いなる役割を果たすと、さらに日本人にとって森の恵みとともに生きてきた文化や歴史にも目を向けることなどの重要さを掴むことができました。六十歳の手習いですが、私に出来ることがあるなら、森の恵みに感謝し、技術を高め、愉しみながら山の仕事に関わり続けたいと思います。

樹の「ラム

むらさきしきぶ 紫式部

くまづら科 紫式部属

落葉低木で六月、八月の夏にピンクから濃い紅紫色の花をさかせます。小さな花ですが数個集まって咲き、近くで見るととても美しい、きれいな花です。淡い紫色の花弁からつきだした雄しべと雌しべの黄色のコントラストが目をはきまします。

この木はどちらかというと、紫色に実った実の方が有名です。でも葉だけの時の紫式部って、誰にも気付いてもらえないみたいなんです。葉が対生に付き、すつつとした感じ



で枝を伸ばして、割と見分けやすい特徴があるので、どこの山野にも普通に生えています。

紫式部属は、熱帯から温帯にかけて約百四十種あり、日本には十一種が分布しています。一般的なむらさきしきぶと、こむらさき、やぶむらさき、おおむらさきしきぶ、他に、とさむらさき、ピロードむらさき、蓬菜むらさきなどがありますがこの種類は暖かい地方に分布しているようです。私たちが大体山で良く見かけるのは、紫式部か、藪紫のようです。

紫式部は、大きいもので約二mから三mほどになり、株立ちしている樹の、花時や実が付いているときに会おうと、思わず足を止めてしまうほど見事です。藪紫は六月、七月に咲き、花数が二十個ほどで、果実もまばらで紫式部よりはあまり見応えはないですが、山野の樹という趣が

あります。

この二種の他の見分ける点は、藪紫は枝や葉、花序に見てわかるくらい毛が多く、紫式部はほぼ無毛であることと、果実が実っているときに、藪紫には萼片が有り、紫式部には無いことで見分けることが出来ます。

私の家の近くの山に、紫式部が沢山自生していて、斜面の少し上から枝を垂れさせて、丁度目の位置に花を見ることが出来るので、毎年この時期になると散歩をしに出かけています。ちよつと藪をかき分け、蜘蛛の巣からまわりながら行く、ワイルドな散歩コースですが。

「鶯」

おわりに

早い梅雨明けの後には、夏らしいのらない日々が続く、ようやくお盆頃から暑くなったのも束の間、はや秋の気配を感じるような気候。きのこにはいいようですが、季節感を置き忘れたような夏です。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994



E-mail:
sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062 (開催日)
URL http://www.koanet.co.jp